



**宮田村東保育園+こゆめ保育園**

— 格子梁のシステムがつくる多様な場と繋がり —

2歳保育室、東側を見る

**●場所と用途**  
敷地は長野県上伊那郡宮田村、保育園の統廃合により未満児専用の保育施設の新築、および既存保育園の改修工事を含む園全体の再編成を計画している。

**●ワークショップ**  
住民・保護者・保育士のワークショップを行い意見やアイデアを反映させている。検討委員会などから現場の声を積極的に計画に取り入れた。

**●平面計画**  
新築部は南北に細長い敷地に対して通風と採光に配慮し、中庭を配した櫛形形状。成長段階に応じた保育環境は各室の家具レイアウトにより決定している。既存棟と新築部をアクセスデッキで繋ぎ、園庭を囲むように繋げる事で両園の一体感を高めた。アクセスデッキは全ての保育室の玄関に面し、送迎時の交流の場として利用される。

**●周辺環境と室内環境**  
低層化、分割する事で近隣宅地への圧迫感を低減させ、色彩は素材色を基本とし、朝日や夕日が映り込む色とした。風向きと風量を考慮し、パッシブな室内環境を確保している。特に室内の下部の風通しに配慮した。冬期の日照率の高い地域の為、ダイレクトゲインを直接取り込み暖房効率の良い建築とし、開口部はLow-e ガラスを採用し冬期も快適な室内環境が確保される。

**●構造と県産材**  
木架構は 45mmx330mm 格子梁を採用し無柱の大空間を実現し、室内のアクティビティを高めている。室内は県の補助金を受け木質内装化し、県産材の檜合板、檜フローリング等を使用し、子供の直接触れる部分は極力無垢材の表情を活かした仕上げとした。

